

## 施策評価調書(元年度実績)

		施策コード	Ⅱ-1-(2)		
政策体系	施策名	マーケットインの商品づくりの加速	所管部局名	農林水産部	
	政策名	挑戦と努力が報われる農林水産業の実現	関係部局名	農林水産部	
			長期総合計画頁	79	

### 【Ⅰ. 主な取り組み】

取組No.	①	②	③	④
取組項目	マーケットニーズに対応した流通・販売力の強化	新たなマーケットの創造	産地間競争に勝ち抜く生産力の強化	新たな需要を獲得する戦略的な海外展開

### 【Ⅱ. 目標指標】

指 標	関連する取組No.	基準値		元年度			6年度	目標達成度(%)												
		年度	基準値	目標値	実績値	達成度	目標値	25	50	75	100	125								
i	農林水産業による創出額のうち戦略品目の産出額(億円)	H25	821	906 (H30)	880 (H30)	97.1%	1,169 (R5)													
	農業	①②③	442	505 (H30)	456 (H30)	90.3%	660 (R5)													
	林業	①②③	169	186 (H30)	199 (H30)	107.0%	230 (R5)													
	水産業	①②③	210	215 (H30)	225 (H30)	104.7%	279 (R5)													
ii	農林水産物輸出額(億円)	④	H26	15	31	25.6	82.6%	57												

### 【Ⅲ. 指標による評価】

評価	理 由 等	平均評価
i 概ね達成	<p>農業について、ねぎ類の冬場の価格低迷による産出額の減少等により、目標値達成には至らなかったものの、園芸品目では、いちごの単価はベリーツへの転換により単価が向上するとともに、トマトやピーマンでも単価や収量が向上したことで、産出額は前年に比べ5億円(+1.9%)増加した。畜産品目では、肉用牛子牛の増頭等により4億円(+2.1%)増加した。そのため、農業全体で9億円(+2.0%)増加した。</p> <p>林業は、堅調な国産材需要を背景として素材生産量が増加したこと等により2億円(+1.0%)増加し、目標値を達成した。</p> <p>水産業は、養殖ブリ類の生産増や単価上昇などにより3億円(+1.4%)増加し、目標値を達成した。</p> <p>(農林水産業産出額の国の公表が約1年後となることから、R1年度の目標値・実績値にはH30年の数値を記載している。)</p>	概ね達成
ii 達成不十分	<p>輸出額は新型コロナウイルスの影響に伴う中国向け輸出の落ち込みや北米向け養殖ブリの他産地・冷凍品との競合等により目標に達していないが、台湾向け牛肉や香港向け甘たくんの取引量の増加等により、過去最高となった(対前年比1億円(4%)増)。</p>	

#### 【IV. 指標以外の観点からの評価】

取組 No.	指標以外の観点からの評価
①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・拠点市場のシェア拡大に向けて、卸売市場でのPRや小売店等で販促を行うとともに、ラグビーワールドカップでの来県者に対して、大分版フィッシュ&amp;チップス等の新たな食べ方提案など、県産品の商品開発や販路開拓を行った。</li> <li>・ベリーツは生産者が技術面で不安を持ち、生産者数や導入面積は目標に達していないが、PR効果による高単価販売や年内収量と果実品質の高さから期待は高まっている。</li> <li>・乾しいたけの消費拡大に向けて、粉末やスライス等の新しい食べ方の普及に取り組むとともに、新ブランド「うまみだけ」を発表・販売開始し、乾しいたけの魅力をアピールした。</li> </ul>
②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・付加価値額の向上を図るため、6次産業化プランナーの派遣などを行った結果、新たな商品の開発や販路の拡大につながった。</li> <li>・建築士に対し講習会への参加を積極的に促した結果、目標を上回る参加者となった。また、全ての科目を履修した木造マイスター研修の修了者も目標を上回る18人となり、今後の木造建築物推進に向けた体制の強化が図られた。</li> </ul>
③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ピーマンなどの園芸戦略品目やキャベツなどの園芸戦略品目ネクスト等の栽培施設整備や生産基盤整備を行い、園芸戦略品目の栽培面積は目標を上回る49.8ha増加し生産拡大につながった。</li> <li>・有機農業者の生産性向上や販路拡大に向けて、生産者のグループ化による共同出荷体制の構築を支援した結果、グループの拡大や県域での体制整備につながった(H30:8グループ→R1:12グループ)。</li> <li>・ブリ類養殖業の効率化を図るため、人工種苗生産技術の向上に取り組んだ結果、生産尾数は、目標を上回る67,000尾となった。</li> </ul>
④	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県産農林水産物の輸出拡大に向け、海外バイヤーの招へいや商談会・展示会等の実施・支援を行った結果、輸出延べ品目数は目標を上回る48品目となった。</li> </ul>

#### 【VI. 施策に対する意見・提言】

○第2回食育推進会議(R1.12)  
 ・有機農業を業として行うには、ものづくり、継続した管理、販路の確保が必要。販路の確保のためには、地域毎のネットワークを作る必要がある。

#### 【VII. 総合評価と今後の施策展開について】

総合評価	施策展開の具体的内容
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県オリジナルいちご「ベリーツ」や乾しいたけの新ブランド「うまみだけ」、かぼす養殖魚などの生産・流通拡大を進める。</li> <li>・農林水産物の付加価値額の向上のため、食品企業との連携を継続するとともに、儲かる有機農業を実現するため、県域での有機野菜生産出荷体制の整備や国内外の消費者への情報発信を強化する。併せて新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、有事における安定出荷のための販路の多チャンネル化を検討する。</li> <li>・大分青果センターを拠点とした広域流通体制を構築し、園芸品目等の輸送の効率化、モーダルシフトによる関東方面への出荷を推進する。</li> <li>・輸出に関心のある生産者を対象にトライアル輸出等への支援を行い、新たな輸出プレイヤーの発掘を行う。</li> </ul>

#### 【V. 施策を構成する主要事業】

取組 No.	事業名(元年度事業)	事務事業評価	
		成果指標の達成率(%)	掲載頁
①	The・おおいたブランド流通販売戦略推進事業	90.9	150
	県産いちご「ベリーツ」産地・流通拡大対策事業	28.2	150
	しいたけ消費拡大推進事業	77.0	151
②	6次産業化サポート体制整備事業	250.0	151
	木造建築物等建設促進総合対策事業	120.0	152
③	「おおいたの有機」産地づくり加速化事業	97.3	152
	活力あふれる園芸産地整備事業	110.7	153
	ブリ類養殖業成長産業化推進事業	80.0	156
④	農林水産物輸出需要開拓事業	82.6	156